K. M. 英語英文学科・３年次

Ⅰ. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は大学に入る前から長期の留学をしたいと考えていました。きっかけは中学生の時に経験した１０日間のオーストラリアでのホームステイです。しかし、いざ大学に入学してみると、友達と過ごす日々が楽しくて留学なんてしないで大学生生活を満喫しようと思うようになりました。そんな時にクラスの友達が自分の夢を叶えるために大学に通いながらスクールに行くことを決めたと聞き、私は自分はこのままでいいのかと考え直しました。そして、時間の融通が効く大学生の内に夢であった海外の大学への留学を決意しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

IELTS の単語帳を購入し、毎晩寝る前に１００単語を書いて覚えていました。また、その中で覚えられないものは単語カードを作成して空き時間に復習するようにしました。私はリスニングとライティングが苦手で足を引っ張っていたので、それぞれの対策として、リスニングは TOEFL 対策用の CD 付きの本を持っていたのでそれを使って毎日シャドイングしました。すると今まで頭の中で英語から日本語に変換されていたのが英語のままで理解できるようになりました。また、英語も遅く聞こえるようになりました。シャドイングのお陰でリーディングの際も英文がスムーズに理解でき、読むのが早くなりました。ライティングはクラスや取っていた授業を担当して下さっていたネイティヴの先生方３名にお願いし、自宅で IELTS の過去問を使って時間制限内に書いたエッセイを毎週提出し、添削してもらっていました。その他の英語の勉強としては CBC Radio を聞いたり、YouTube で Vlog をしている海外の YouTuber さんを見たりしました（CBC で現地のニュースを聞くことで情報収集にもなります！ 私が見ていた YouTuber さんは Its Judy's Life です。カーペンター先生に教えて頂きました。良かったら見てみてください☺ ）。

英語を勉強し過ぎると、英語を使う楽しさを忘れてしまうことがあるので実際に英語圏の人達と（Office Hour を使って教授と会話するなど）お話し出来る機会を設けるとモチベーションも向上していいと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後からの語学勉強は基本的に CBC Radio を聞いたり、シャドイングを続けたり、単語の勉強の継続などです。ビザ申請に関しては国際課に紹介して頂いた業者に委託しました。

④ 現地到着後

空港まではホストファミリーが迎えに来てくれました。ビクトリアの空港は大分離れた所に位置しているので、空港からホストファミリーの家まではだいたい車で１時間程度かかりました。

大学でのオリエンテーションは９月上旬に１回ありました。それは留学生向けのもので主に大学内ツアーや留学生対象のアカデミックサポートなどについてでした。

⑤ 語学研修期間

通っていません。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

とにかく大学が広いので初めは迷子になったり、授業が詰まっていると１０分間の休憩で移動することが難しかったりします。自然豊かなキャンパスで木にもたれて読書をしている学生やフリスビーをしている学生がいたり、芝生の上でお昼寝をしている学生が沢山います。THE 海外の大学という雰囲気です。リスや鴨もいます。授業中、生徒は積極的に授業に参加しますがサンドイッチを食べていたり生の人参を食べていたりと、とても自由でした。

◆ 履修科目

◆ 授業、レポート、定期試験

日本に帰る時には４回生なので、帰国後に単位に困らないように沢山取るようにしました。ただ、２００番代の授業は現地学生の２年生向けで専門的な内容でかつレポートの枚数なども多くなり、大変なので２学期目に取ることを心掛けました。

＜１学期目＞

・Canadian Society

歴史上の社会学者の思想についての解説からカナダの社会問題についての内容でした。特に、カナダの社会問題を政治面や国民視点からだけではなく、先住民視点からも考察するので現在カナダで何が起こっているのかを知る事が出来る魅力的な授業でした。私は留学生なのでカナダの社会問題についての意見や見解をホストファミリーや友人から積極的に聞くようにしました。

テストが２回、レポート提出２回、クラスメートとの共同のプレゼンテーションが１回です。（２０１７年度クラス人数：９５人）

・Introduction to Canadian Culture

カナダの歴史について映画、絵画、小説などを通して理解を深める授業です。ダウンタウンへのフィールドトリップが１回ありました。基本的なカナダの歴史を学ぶ授業なのでクラ

スメートの９割程度が留学生で、友達ができやすかったです。授業では手を挙げて発言したりディスカッションで積極的に参加したりする事が求められました。ですが、クラスの雰囲気は和気あいあいとしていてリラックスして参加する事ができます。
フィールドトリップの感想文、レポート２回、共同プレゼン１回、テスト２回です。（２０１７年度クラス人数：３４人）

・Gender, Power and Difference

LGBTQ の定義や北米のフェミニズム運動の歴史や活動家についてです。授業内で内容関連の映画を見ることも多かったです。また、課題に出されている本や記事に基づいた小グループディスカッションが毎週ありました。
レポート２枚、テスト２回です。（２０１７年度クラス人数：５１人）

＜２学期目＞

・Academic Reading and Writing

この授業は学部学科関係なく、UVIC の１年生が取らなければいけない必修の授業です。なので英語が母語ではない留学生にはとてもレベルの高い授業でした。この授業が一番辛く、大変でした。内容としては、教科書に基づいてアーティクルの内容をクラス内でディスカッションし、指定されたライティングスタイルでレポート作成、提出という形です。レポートに関しては文法ミスなんて論外で、ニュアンスが違っただけで大きく減点されました。数回に１度、自分のレポートをクラスメートと交換して意見を求められる時があります。
小レポートを除くレポート３枚、テスト２回です。２回目のテストは３時間ぶっ通しの筆記でした。（２０１７年度クラス人数：３５人）

・Gender, Food and Power

食料が私たちの元に届くまでにどれだけ廃棄されているかを学びました。
毎週１回、授業内容に関する映画も見ました。クラス全員で行うディスカッションも度々ありました。
レポート４枚でした。（２０１７年度クラス人数：５７人）

・Myths, Fairy Tales and Fantasy Fiction

ハリーポッター、ディズニーの白雪姫などのグリム童話に基づいて作成された映画が原作とどの様に異なっているのかを学びました。また、グリム童話とドイツ神話との繋がりを理解し、それらに出てくるそれぞれのキャラクターがどの様な役割を担っているのかを議論したりしました。
レポート２回、テスト２回でした。（２０１７年度クラス人数：１２３人）

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

＜クラブ＞

Japanese Culture Club

登録だけして２か月に１回参加する程度でした。

＜ボランティア＞

日本語教師アシスタントボランティア

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は８か月間ずっと同じホストファミリーにお世話になりました。留学前の予定では、初めの４か月をホームステイ、残りを大学寮で過ごす予定でした。しかし、ホームステイではサンクスギビングやクリスマス、イースターなどのカナダの文化や習慣を知る事が出来るというメリットがあると感じ、更に大学寮は長期休暇が始まるとすぐに立ち退かなければいけなかったりするのでホストファミリーに相談して期間を延ばしてもらいました。ホームステイ先から大学までの通学時間はバスで２５分程でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

前期の授業でディスカッションに上手く参加できなかったり、プレゼンテーションに対する抵抗を感じたので長期休暇を利用して、ダウンタウンにある語学学校に通っていました。とてもアットホームな語学学校で、友達が沢山できたり、年代の違う日本人の方に出会って就職活動の相談に乗っていただいたりしました。

両親がカナダに来たので、バンクーバーへ旅行に行ったりもしました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は留学前から就職活動を見据えて、キャリア支援部に行って相談に乗っていただいたりしていました。留学中は四季報などを見てどの企業を受けるのかを決めたり、SPI の対策などをしていました。３月からはマイナビなどのアプリを介して企業の説明会に参加したり、面接対策講座を受けたりしました。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは沢山ありますが、最も楽しかったのはホストファミリーとの生活と、日本語教師ボランティア先で出会った友達とティムホートンで毎日勉強したり、お喋りしていた事です。私のホームステイ先には９歳の女の子と７歳の男の子が居り、自分に妹と弟が出来た様でした。毎日２人と遊んだり、会話をしたりすることで癒されていました。ホストファザーとマザーも、とても明るい人で私の相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれたり、大好きなホストファミリーであり、感謝しています。日本語教師ボランティアで出会った友達

は同い年で中学生の時から海外留学しているバイリンガルの子でした。大学は違ったのですが、休日と学校帰りにティムホートンに集合して課題を一緒にしたり、ひたすら喋ったりしていました。その時は英語と日本語、半々で話しました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最も大変だったのが大学の課題です。休みの日に遊びに出かけても常に頭の中にレポート提出期限がありました。けれど、とにかくやるしかないので周囲の人にも助けてもらいながら毎回なんとか乗り切っていました。課題のお陰で逃げない精神を養えました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本の大学の授業がとても受動的なのに対して、北米では生徒が能動的に授業に参加することが求められました。教授の話を遮ってまで質問する生徒がいたり、熱心にディスカションに参加するクラスメートに圧倒されました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は図書館が幾つかあって、勉強するスペースが多いことです。他には、大学自体に留学生が沢山居るので、教授たちも留学生に理解を示してくれることが多かったです。悪かった点はパソコン台数と印刷スペースが少ない点です。テスト期間中などは朝早くに行かないと席が取れないです。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコン、湯たんぽ、常備薬、体温計、シャンプー、リンス、日本の化粧品・化粧水、ユニクロのライトダウンジャケットとヒートテック、湯たんぽと体温計が特に役立ちました！現地では水の質が違うせいなのか、シャンプーのせいなのか、髪の毛が抜けたりすることが多かったので日本からシャンプーとリンスを送ってもらいました。化粧品も肌に合わないことがあるので、留学前から海外のブランドのものを使って、同じものを現地で購入する様にしていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は確実に伸びました。映画も字幕なしで見ることができる様になり、語彙力が高まりました。また、帰国後に英語圏の人と話をした際に、「留学したことある？発音がとてもいい」と言われて嬉しかったです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学生活は楽しいことも多いですが、辛いことや苦しいことも沢山あります。けれど、大変な状況下だからこそ周りにいる自分を支えてくれる家族や友達の存在に気づけたり自分の

弱さに向き合えたりします。私自身、留学生活を振り返ると大変だったなと思うことの方が多いです。ですが辛いことや大変なことが多い分、それらを乗り越えた時には留学前の自分よりも成長することが出来ると思います。

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

まだ将来については決めきれていませんが、日本文化や日本の良い商品を海外に発信したり、子供たちに英語を使う楽しさを知ってもらう仕事に就きたいと考えています。留学経験を活かして、少しでも日本と海外を繋ぐことができればと思っています。

Ⅴ．写真

ホストマザー、グランマ、シスターです。

クリスマスにはホストマザー側の兄弟夫婦が泊まりに来たので、１２人分のプレゼントです。

ビクトリアには英国風の建物が多く、馬も街中で走っていました。

ティムホートンが年に一回するくじに友達と当たった時の写真です。